

2019年度 第3回JSR編集委員会 議事録

日時：2019年5月9日(木)午前7:00～8:15

場所：パシフィコ横浜会議センター 3階 317

出席：長谷川和宏(担当理事)、川口善治(委員長)、赤澤 努、今城靖明、大島 寧、
鈴木亨暢、高畑雅彦、竹内大作、二階堂琢也、長谷 斉、福岡宗良(以上、11名)

欠席：高野裕一

陪席：杏林舎：片山氏、鶴間氏、明松氏、真鍋氏 事務局 鈴木(以上、5名)

報告事項

1 前回JSR編集委員会議事録について(資料1)

一同査収した。

審議事項

1 日本側弯症学会号 二重投稿疑い論文の件：JSR 論文取り下げ申請に関するメール審議結果(資料2・3)

川口委員長が、前回委員会でも検討した昨年の日本側弯症学会号に掲載された二重投稿(『JSR』と『SPINE』へほぼ同時期に投稿)の疑いのある論文の件で、著者より送付された論文取り下げ依頼の手紙を提示した。

側弯症学会担当の赤澤委員が、側弯症学会内での検討した内容を報告した。側弯症内では特に、まったく同一の図表を両雑誌への申告なしに使用していたことについては問題視されたとして、JSR編集委員会での検討を希望した。

竹内委員：本人が撤回を希望しているということだけにおいて、撤回を認めてよいものか。投稿が先だったことから優先は『JSR』であるはずだが、『SPINE』に載せたものを優先させたい気持ちは理解できる。法的には問題ない、倫理的には問題があるように思う。

今城委員：今回の件については撤回でよいと思うが、今後も『JSR』に掲載される優秀な投稿が減っていくように思う。

大島委員：側弯症学会としての問題はクリアされたのであれば、今回は撤回でよいと考える。

福岡委員：各特集号で学術集会等での優秀な発表に投稿を呼びかけるので、今後はますますそういった発表を海外の有名誌に投稿する人も増えてくると予想する。同時に『JSR』への優秀な投稿も減ってしまうかもしれない。海外の有名誌を会員全員が読むわけではないので、二次出版の道があればと思う。

鈴木委員：今後の同様の件が生じないよう、予防策を検討する必要がある。『JSR』に投稿済みのものを他誌に投稿する場合や、その反対の場合について、こうすればよいというわかりやすいアナウンスがあるとよいと考える。

二階堂委員：編集委員という立場なので二重投稿等について敏感になっているが、そうでなければ自分も今回の著者同様に、二重投稿の認識なく同じことをしたかもしれない。会員との認識差を埋める必要がある。

高畑委員：今回の件は、本来は『JSR』へ先に投稿しているので優先は『JSR』であるが、アクセプトが『SPINE』のほうが先だったのでギリギリ撤回も認められるのかと考える。しかしながら他誌への投稿についてのチェック欄等が設けられていて、それに誓約しているのだから、その点では本来は認められないのではと考える。

以上の委員の意見を検討のうえ、今回の論文取り下げについては全員一致で承認した。

2 投稿規程の修正 二重投稿対策のために「選択と付記」にある7項目の再考(資料2)

川口委員長が、現在の『JSR』投稿規程内の「選択と付記」について、以前に議論の未決めた内容ではあるが、今回の件を受け不十分な内容であると考えているとして、意見を求めた。また、長谷委員から某学会の二次出版についてのガイドラインを参考資料として受け取ったが、内容が明確で伝わりやすいとして読み上げた。将来的に当学会の投稿規程等にも明確に二次出版についての記載を入れていきたいと意見を述べた。

長谷委員：今回問題になった著者にしても、二重投稿するつもりはなかったが、投稿規程がわかりにくく、今回の投稿が二重投稿に該当することが投稿規程からは明確に読み取れなかった点でこちら側にも落ち度があると思う。某学会のガイドラインのようなクリアカットな説明があればよいと考える。

長谷川理事：現状の「選択と付記」は数年前に作成したものであり現状とそぐわない点があるので、言語が違っていても同様の症例等を扱ったほぼ同内容の投稿の複数誌への投稿は二重投稿であることなどを明記する必要がある。

川口委員長：より明確な記載を検討するので、後日委員に文案を回覧し、意見を求めたい。『SSRR』に載った優秀な英文論文を二次出版として『JSR』に載せるなど、双方に掲載された論文の二次出版もされてもよいと思う。

赤澤委員：「選択と付記」の存在について認識していない著者が多い。今回の件でも初回投稿時には「選択と付記」の7項目について選択されておらず、再査読時にこちらから指摘して選択された経緯がある。COIもタイトルページに掲載することになっているが、投稿規程5番にCOIについての記載がないこともあり掲載されていないケースも多い。また、現在の投稿規程には『JSR』に投稿された論文が「査読される」ことについてどこにも記されていないことについて指摘があったので、規程内に明記する必要が

ある。

以上を受けて、長谷川理事が杏林舎片山氏に、2020年からの委託に際しては投稿時に簡易にかつわかりやすく著者および査読者がチェックできるようなフォーマットを用意してほしいと依頼し、片山氏が承知した。

赤澤委員が、二重投稿時の罰則規定を設けるべきかについて、側弯症学会側で意見が出たがどうかと提起した。

竹内委員が、罰則規定を設けるには、「罪の重さ」を判定しなければならないが、その線引き・レフリーは大変困難だと考えると意見を述べた。

長谷川理事が、以前に『JSR』で二重投稿事例があった際にも同様のことを検討したが、『JSR』への投稿のハードルが上がってしまうので、まずは今回投稿規程を修正することで対処してはどうかと提案し、一同賛成した。

長谷委員が、投稿規程修正時には、現在規程の最後のほうに掲載されている「選択と付記」をもっと前のほうにし、二次出版等について明記したうえで、『JSR』では優秀な論文の二次出版を歓迎する姿勢を示すと投稿しやすくなるのではと意見を述べた。

長谷川理事が、COIの件とともにタイトルページに「選択と付記」の項目を記載するようにして、わかりやすくしたいと発言した。

二階堂委員が、確認として著作権は投稿したのが早い雑誌が有するのか、アクセプトしたのが早い雑誌が有するのかどちらかと質問し、長谷川理事が投稿が早かった雑誌が有すると回答した。

投稿規程の変更については、以下3点。確定部分は、川口委員長から編集分室尾島氏へ連絡の上、現在の投稿規程を修正いただく。

修正 投稿規程の1 ～採否は編集委員会で決定する ～査読の上採否は編集委員会で決定する

修正 投稿規程の5 ～タイトルページには この部分のどこかに COI と「選択と付記」の項目を記載することを追記する

修正 投稿規程の「選択と付記」の内容 川口委員長が修正文案を検討して、メール審議または次回委員会にて審議とする

3 JSSR 優秀論文賞の告知内容の件（会告案）

川口委員長が、長谷川理事と検討した告知内容を読み上げた。チラシとして作成し、『JSR』に同封予定。

事務局より、副賞のほかに賞状を出すかとの質問があり、川口委員長が出す予定と回答

した。また、表彰式がいつ行われるか等の記載もあったほうが良いのではとの意見があり、現在学会で設けている大正 AWARD の募集会告を参考とすることになった。

4 JSSR 優秀論文賞の評価について 時期と方法の確認(案)(資料4)

川口委員長が、JSSR 優秀論文賞の評価方法について以下を提示した。

・1位、2位、3位までを挙げそれぞれ5点、3点、1点を付与し評価者の平均点数で判断する。

・教室に関わる論文が出ている場合、評価者は審査から除外する。

・JSR 委員会で最終決定する。(時期によってはメール審議も可とする。)

長谷川委員が、「教室にかかわる」としてしまうと大きな医局や大学に所属する著者の論文の審査に影響が出てしまうのではないだろうかとの意見を述べ、「共同著者および同所属にかかわる」としてはどうかと提案した。

長谷川理事が、出身大学も COI の観点から考慮したほうが良いように思うが、現在の風潮はどうかと大島委員に尋ね、大島委員が長谷川委員の意見同様、大人数の医局・大学に所属している著者の論文が不利になると意見を述べた。

長谷川理事が、同点の場合はどうするかと提起し、川口委員長が委員会内で再審査等を行ってはどうかと意見を述べた。赤澤委員が、側弯症学会では、同点の場合は一人に絞らず賞金を分ける形で、なるべく多くの会員が受賞できるようにしていると説明した。

5 メールアドレス調査に関する会員へのお知らせの件(会告案)

長谷川理事が、『JSR』の紙媒体が今後なくなることもあり、学会からのお知らせがメール中心になることから、会員にメールアドレス登録を呼びかけるチラシを作成して『JSR』へ同封することを予定していると説明し、優秀論文賞のチラシの下半分として次号以降同封していくことが確認された。

6 オンライン化 今後の予定(追加資料)

川口委員長が、杏林舎片山氏に追加資料についての説明を求めた。

オンライン査読導入のスケジュール

5月中にサイト仕様の検討

6月中にテスト開始

7月オープン

よって、初年度の契約及び請求は7月から開始

『JSR』オンライン誌の URL について

すでに『JSR』や『JSSR』は他誌で利用があることから、別の3案が出され、一同検討した。結果、JSR-JP (Journal of Spine Research-Japan の略記) とすることになった。

一般投稿および依頼原稿の査読の流れ案

一般投稿と依頼原稿の査読の流れの提案がなされた。片山氏が、詳細については現在編集を担当されている編集分室に内容をうかがってからと補足した。

会場より、JSSR 以外の特集号の査読はどうなるかとの質問があり、長谷川理事が今回のシステム導入は JSSR 号に限ったことであり、他学会特集号については今まで通りの査読等をローカルで行っていただき、現在の編集分室との間で行っていること同様に、入稿原稿を杏林舎へ渡すという流れになると説明した。

杏林舎へ各学会から入稿原稿を渡す際は、原稿部分は word とし、図表等については PDF 等とすることになったが、片山氏よりどのような形式でも対応できる体制は整えていると発言があった。

二階堂委員が、今後の各学会特集号の締め切りはどうなるかと質問し、片山氏が今まで通りを踏襲したいと回答した。また契約が今年 7 月からとなるので、論文受付自体も 7 月から開始できると説明した。

7 その他

- ・次回開催は、7 月の骨軟部腫瘍学会初日の朝 7 時ごろを予定。
- ・事務局より、通常であれば広告募集をそろそろ開始すべきであるかと質問があり、長谷川理事が通常号はすべて電子化されるため募集は行わないことと、抄録集のみ紙で発行することになれば、その広告については学術集会側で広告を募集してもらうように、学術集会側に依頼予定と回答した。

以上